

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月22日(火)

### 《マリア・マグダレナ Yさんのお通夜に》

今日の答唱詩篇で、「主はわれらの牧者、わたしは乏しいことがない。」と歌いましたね。そして「たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない。」と続いて行きます。皆様は、その言葉をどのくらい実感していらっしゃるでしょうか。『乏しいことがない』という言葉が出るくらい、強い、熱い信仰を感じていますか。ある意味では、私たちは幸せな者だと思えます。なぜならば、『信仰』があるから、人間的なこの最後の別れさえ受け入れることができるからです。『信仰』と言え、永遠の命が約束されていることにつながります。私たちには絶対に別れがないことを信じる心です。そして、そのもとは主イエス・キリストの栄光であることも私たちは信じています。

ですから私たちは、いろいろな別れをある意味では希望として、ある意味では喜びとして、受け入れることができるのです。そして、『乏しいことがない』という告白ができるのだと思えます。

明日の葬儀には、大勢の方がいらっしゃるでしょう。ご家族の方の気持ちを考えると大勢の前では話しにくいこともあります。ですから、今日、皆様と個人的なことを分かち合いたいと思えます。今日のミサは、家族のミサだと思ってください。

私は、このマリア・マグダレナ Y様とちょうど一年前に出会いました。

彼女が太田に来る前に、私は彼女の姉であるKさんから彼女のことで相談を受けました。その時私は、「できるだけ早くいろいろなことを片付けて、太田に来られるようにしたらよいでしょう。」と答えました。きっとKさんは覚えていらっしゃるでしょう。私は、太田にいらっしゃる前の彼女のことは何も知りません。出会ってから一年間の思い出が私にとっての彼女の思い出です。彼女との絆になります。ただ、出会った時には、いろいろなことを感じました。彼女がこの太田に来られたのも、神様の呼びかけだったのだと思えます。

この一年間、彼女は病院のベッドの上で過ごさなければならぬ状態でした。しかし、その間に十分にご自分のことを片付けて、良い準備ができる時間を過ごされたと思えます。昨年の復活祭にお会いした時には、私の手を握って何とか自分の心を表されました。その時にも、彼女が自分の状態を受け入れようと努力していることが強く感じられました。ですから、彼女のお葬式は「素晴らしいお葬式」「素晴らしい旅立ち」になると私は信じています。彼女は一年間、イエス様が用意された道をしっかりと歩まれました。このように準備をして死を迎える人はなかなかいません。信者でさえ、このような気持ちで、自分の死を考えながら過ごせる人は少ないと思えます。それは確かなことです。私にはよく分かりませんが、彼女の個人的な人生の中にはいろいろなことがあったと思えます。しかし彼女は、それを全部まとめられる時間、片付けられる時間、そしてこれからの準備をする時間を一年間、たっぷりいただいたのだと思えます。そういう意味で、彼女こそきっと『乏しいことがあ

りません』とご家族に伝えていらっしゃると思います。ですから、ご遺族の方々、特にお姉さんであるKさん、がっかりすることはありません。後悔することはありません。ただ、彼女に「お疲れ様。ご苦労様。」と挨拶する心でこのミサを、そしてお葬式のミサを迎えましょう。

それから、この席を借りて感謝の気持ちを表したいのは、彼女の姪のNさんです。一年間、本当に頑張られました。横で見ている、「本当に大変なことだ」と思われるくらい、彼女にいろいろなことをしてあげていました。個人的には、いろいろな心の葛藤もあったと思います。しかし最後まで叔母さんの横にいて、叔母さんが行かれる道を伴ってくださったNさんに本当に感謝致します。今までよく頑張られましたね。これが家族というものです。しかし、このような一番基本的な絆さえ拒んでいこの世の中を見ると本当に心が痛みます。

さあ皆様、これからもっと家族との絆を強めてください。それがなければ、そうでなくても難しいこの人生が生きにくくなります。皆様も私も全ての人間は結局寂しい存在です。寂しいという事実を拒める人は誰ひとりいないと思います。寂しいから、寂しい者同志がお互いを認めて相手の心をつかろうとするのが家族ではないでしょうか。家族の意味を深く考える恵みあふれるミサになってほしいと思います。

皆様、彼女は良い所に行かれます。心配なさないでください。そして彼女の死を通して、私たちが今までの自分の人生をもっと振り返ってみましょう。

ありがとうございました。